

令和6年1月9日（火）
3学期始業式

魚を与えるな、釣り方を教えよ



校長 下村 昌弘



全校の皆さん、明けましておめでとうございます。

今日から3学期。すでに補習や模擬試験を終え、日常生活のリズムに戻っているかもしれませんが、こういう儀式的な行事は一つの節目として大切にしてください。

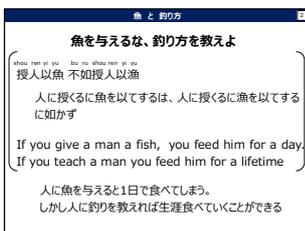
さて皆さん、今年の目標は何ですか。すでに手元の TAKEOFF 手帳にメモしているでしょうか。まだの人は私の話を聞きながらこの時間内に書いておいてください。

では大きな話からで恐縮ですが、現在、世界を見渡しますと、ウクライナでの戦争は来月2月で2年になろうとしています。また昨年10月、イスラム組織ハマスによるイスラエルへの攻撃で始まった紛争も今なお続いています。

日本でも新年早々能登半島で地震が頻発したり、羽田空港で航空機が衝突事故を起こしたりと、正月気分返上といった緊張感でした。

まさに混迷の時代の幕開けといった感じでしたが、こういう緊迫した状況下だからこそ新たな可能性が芽生え前進する力が生まれてくるものと信じ、守りに入るのではなく、目標に向かって昇り龍のごとく駆け上がっていきましょう。

そこで今回も積極的に考えるという意味で、「抽象化」の話をします。具体と抽象の話は「TAKE OFF press」でも数回にわたり取り上げていますので、できれば何度も読み直してほしいと思っています。



さて、皆さんは「魚を与えるな、釣り方を教えよ」という言葉を聞いたことがあるでしょうか。これは老子の言葉とされています。漢文表記や英語表現はそこに書いてあり、直接的な意味は「人に魚を与えると1日で食べてしまう。しかし人に釣りを教えれば生涯食べていくことができる」です。

おなかをすかせた人がいた場合、食べ物を与えることは空腹を満たすために必要なことなのですが、それだけは、そのたびごとに人から食べ物をもらい続けなければなりません。

それに対して魚の釣り方を習えば、空腹になっても自分の力で魚を捕まえて食べることができます。

とはいえ、多くの方はまず「魚」に目が行きがちです。「釣り方」はついつい後回しにしてしまう。この「魚」と「釣り方」の比喻はいろいろな場合に当てはまります。

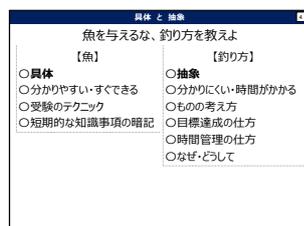


医師の中村哲さんは皆さんもご存じですね。パキスタンやアフガニスタンで長年医療活動に従事された方です。

中村さんは「難民が罹患する最大の要因は飢えや渇きだ。農作物を作ることができて水を飲むことができる環境を作ること以外、薬をいくら費やしても患者の増加は止められない」と考え、診療という活動から井戸掘りと用水路建設、そして学校づくりを手掛けられた人です。

医療行為、薬の投与は対処療法としてとても大切なことです。でももっと大切なことは“水”にあったのです。

中村さんがなさったことはいわば「魚」と「魚の釣り方」の関係ではないでしょうか。今日私が皆さんにお話したい「具体と抽象」の話は「魚とその釣り方」の関係そのものです。



「具体」というのは誰でも比較的容易にその意味を理解することができます。だから「分かりやすく具体的に説明してください」というのは「すぐに食べられる魚をください」というのと同じことです。しかし、それだけではその場限りのことになってしまいがちで、後に残らないことが多いのです。

一方「釣り方を覚える」というのが「抽象的に考える」ことに相当します。

抽象的に考えたり、抽象的なことばを使ったりすることは「理解に時間がかかる」「習得に努力を要する」という点で「釣り方を覚える」のと同じなのですが、いったん身につければ一生モノの能力になります。

学校での学びも「魚」に相当する部分と「釣り方」に相当する部分があります。

これらは両方必要なのですが、「魚」の方がその価値が分かりやすいので多くの方は「魚」に飛びつきます。しかし本当に人生を充実させることができる人、人生の選択肢を広げることができる人は着々と「釣り方」を身につけています。

受験勉強になぞらえてみましょう。

入試の合格・不合格が高校生にとっては喫緊の課題ですのでできれば手っ取り早く得点につなげたいという気持ちはよく分かります。

しかし試験問題を解くための「テクニク」という「魚」は誰にとっても魅力的ですぐ

に役立つものとして飛びつきやすい一方で、いざ入試が終わってしまったら他のことにはほとんど役に立たなくなってしまう。一夜漬けの知識がいかに定着しにくいかはみなさんも経験上お分かりでしょう。

しかし同じ受験勉強をやっていても着々と「釣り方」を磨いている人もいます。それはどういう人かという、受験勉強を単なる「短期的な暗記」や「テクニックの習得」としてとらえるのではなく、「ものの考え方」や「目標達成の仕方」、「時間管理の仕方」といった観点で、もっと汎用的で他にも役立つ手法としてとらえている人です。

言葉を変えるとその人は「知識を身につける」過程で「なぜ」や「どういうことか」を問いかけながら勉強している人です。

一生「魚」をもらい続けるか、それとも人生の早い段階で「釣り方」を覚えるか。私は皆さんには当然「釣り方」を意識できる人間になってほしいと願っています。

では、今日の後半は私の好きな村上春樹の小説『ノルウェイの森』の一節を紹介して終わりにします。

朗読しますのでリラックスして聞いてください。主人公とそのガールフレンドがデートしている一コマです。

日曜日のお茶の水は…

～

「ふむ」と僕は言った。 (村上春樹『ノルウェイの森(下)』p.54～p.57) 1989年11月15日第37刷 講談社)

ここには主人公ワタナベくんという一人の大学生をとおして「勉強すること」や「生きること」の一つの意味が語られています。彼にとって学びはまさに「抽象化の訓練」だったのではないのでしょうか。

『ノルウェイの森』の主題はもっと違うところにありますし、これが人生の教訓として絶対正しいわけでもありません。あくまで“大きな説(大説)”ではなく、“小さな説(小説)”の一部として受け止めてください。

いずれにせよ、そういう固い話は抜きにして、誠実な主人公ワタナベくんと感動的なガールフレンド緑の対比が生き生きと描かれていてとても素敵な部分だと思います。

具体と抽象	
魚を与えるな、釣り方を教えよ	
【魚】	【釣り方】
○具体	○抽象
○分かりやすい・すぐできる	○分かりにくい・時間がかかる
○受験のテクニック	○ものの考え方
○短期的な知識事項の暗記	○目標達成の仕方
	○時間管理の仕方
	○汎用的・他にも役立つ手法
	○なぜ・どういうこと?
	・系統的に考える訓練
	・形而上学的思考・数か国語の習得
	・役に立つ、立たないはその次の問題

要領よく暗記する、勘に頼る。それも現実的な受験の世界ではアリなのかもしれません。

しかし、受験勉強をとおして系統的に考える訓練をしていると思えば、もっと大きな視野が開けてくるのではないのでしょうか。

あらゆる教科を幅広く勉強することは人生において決して無駄なことではありません。勉強は何かの役に立たせようと焦らなくてもいいのではないのでしょうか。学んだあとに残る一粒の砂金のようなものがあるはず。それが尊いことなのだと思います。

3学期の始まりに当たり、学ぶことの意味・抽象化して考えることの大切さをお話ししました。皆さんにとって、3学期がいい締めくくりの学期になることを期待しています。

意見や感想、続きが読みたい人は校長室まで来てください。これで私の話を終わります。